

10月朝礼
(10月27日)

発行
江戸川区立
瑞江第二中学校
校長 滝澤 清豪
発行日10月31日
東京都江戸川区
瑞江4-54-1

私は今年で教員生活41年目を迎えます。もちろん、瑞江二中の教員の中では最も長く勤めている一人です。この41年間、本当にさまざまな経験をしてきました。時代も社会も大きく変化しました。私が教員になった当初、学校にはまだパソコンがありませんでした。しかし、私は教員になる前から自分のパソコンを持っています。最初の1学期内に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も「何とか学校に来てほしい」と強く願い、生徒の

まず一つ目の話は、「人生の中で美しいことは何か」というテーマでお話しします。私は今年で教員生活41年目を迎えます。もちろん、瑞江二中の教員の中では最も長く勤めている一人です。この41年間、本当にさまざまな経験をしてきました。時代も社会も大きく変化しました。私が教員になった当初、学校にはまだパソコンがありませんでした。しかし、私は教員になる前から自分のパソコンを持っています。最初の1学期内に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も「何とか学校に来てほしい」と強く願い、生徒の

みなさんおはようございます。久しぶりの朝礼です。今日は2つ話をします。少し長時間にはなりますが、どうしてもみなさんに伝えたい事があるので、しっかりと聞いてください。

まず一つ目の話は、「人生の中で美しいことは何か」というテーマでお話しします。私は今年で教員生活41年目を迎えます。もちろん、瑞江二中の教員の中では最も長く勤めている一人です。この41年間、本当にさまざまな経験をしてきました。時代も社会も大きく変化しました。私が教員になった当初、学校にはまだパソコンがありませんでした。しかし、私は教員になる前から自分のパソコンを持っています。最初の1学期内に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

問題を作成しました。そのとき、生徒たちから刷した字は読みにくいし、冷たい感じがします。先生の手書きの方がいいであります。今では考えられないような反応です。

ICT環境はこの40年余で社会全体に浸透し大きくなりました。今では考えられないような時代でした。

私が新任として東京都の中心部の学校に赴任した頃、全国の中学校は「荒れている」と言われていた時代でした。幸いに、私の勤務校は比較的落ちていていましたが、今の瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。

十数年前、私が副校長として勤務していた学校では、全ての運動部が都大会に出場するほど盛んな

瑞江二中は、今や「多様性を認め合い、プレゼンテーションで自己表現力を磨く学校」として知られています。結果として学力も向上しました。

しかし、教育目標の達成度を比べても、SNSをきっかけにした問題は明らかに増えています。

これは本校だけの話ではありません。全国の中学校で同じような状況が起きています。つまり、SNSのトラブルについても、SNSが関わるトラブルの割合がとても高くなっています。

その学校では、1年生から3年生までを縦割りにしてチームを組み、学年間のつなぎりを大切にしています。特に「表現ダンス」は、生徒が自分たちで曲を選び、振り付けを考え、3年生がリーダーとなつて下級生に教えるという自主的な活動でした。先生はあくまで助言役です。

先日の合唱コンクールでも、どの学年・どのクラスも全力で取り組んでいました。特に3年生の歌声は圧巻でした。もし

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれています。先生方も保護者も

人は目標を立て、それに向かって努力し、成果を得ようとします。しかし、努力すれば必ず結果が出るとは限りません。むしろ、どんなに頑張っても結果が伴わないことがあります。

それがうちの学校の伝統です。自分が見本を見せるんであります。一番大変だけど、それがうちの学校の伝統です。

年生が見本を見せるんであります。一番大変だけど、それがうちの学校の伝統です。

私が審査員だつたら、順位をつけるのは本当に難しかったと思います。

私が審査員だつたら、順位をつけるのは本当に難しかったと思います。

SNSを考える

けますよね。それと同じようなものです。

SNSが原因のトラブルには、友人関係やクラスの人間関係、部活動など、いろいろな場面があります。いつたん解決したように見ても、投稿された内容が完全に消えるわけではありません。たとえば、インスタグラムなどに投稿した写真を削除しても、誰かが保存していたり、他の方法で残つてしたりする場合があります。

そうなると、「デジタルタトゥー」といわれるよう、ネット上に一生残つてしまうこともあります。消したつもりでも消えない。それが一生消えない「傷」になることもあります。

ある私立高校では、入学のときにネット上の書き込みを確認するという話を聞いたことがあります。確かな情報ではあります。ませんが、会社の採用試験で応募者のネット上の情報を調べる企業があるのは事実です。

もし、軽い気持ちで投稿した内容が将来の進路に影響したらどうでしょ

「あのとき、あんなことをしなければよかった」と後悔しても、時間は戻りません。生きていけないわけではないでしようが、自分の思い描いた人生を歩めなくなる可能性はあります。

もちろん、みなさんたちだけが悪いとは言いません。社会全体が、まだルールを追いつかせていない面もあります。

しかし、SNSの使い方については、小学校でも中学校でも何度も説明を受けてきたはずです。それでも、写真を無断で載せたり、特定の人を悪く言つたりといったトラブルがなくなりません。

そして、最初に言い始めた人が、最後は自分が傷つく立場になつて終わることもよくあります。そんなことをして、楽しさに不思議に思います。

私がこうしてSNSの話をするのは、年に一度か二度ぐらいです。でも今回は、どうしても自分の言葉でみなさん伝えたいでしようか。私は本当に不思議に思います。

SNSの問題は、学校だけで解決できるものではあります。

ありません。使っているのは家であり、スマホを買い与えているのは保護者の方々です。だから私は、保護者の方にも「責任を持って管理してください」とお願いしています。

家庭でルールを決めている家もあるでしょうし、そうでない家もあるかもしれません。でも、君たちはスマホを「使わせてもらっている」立場です。そのことを忘れないでください。

SNSで他人を傷つけたり、からかったりすることは、絶対にしてはいけません。SNSは便利で楽しい道具ですが、使い方を間違えると、人を深く傷つけ、自分の人生さえも狂わせることがあります。

「学校は関係ない」と思うかもしれません。実際には、学校での人間関係の問題がSNS上に持ち込まれることも多く、保護者から「先生、何とかしてください」と言わされることもあります。

学校で完全に管理することは難しいですが、君たち一人ひとりの意識や使い方で、トラブルは防

ぐことができます。海外では、十五歳未満のSNS利用を法律で禁止する国も出てきています。オーストラリア、フランス、アメリカの一部の州などです。世界中で、君たちと同じ世代の子どもたちがSNSの問題で苦しんでいるのです。日本が同じ道をたどるとは限りませんが、それほど大きな問題として受け止められているということです。

どうか今日の話を、しっかり心に刻んでください。学校にいる間は、SNSに振り回されるのではなく、自分の成長につながる時間の使い方をしてください。友人と連絡を取ること 자체は悪いことはありませんが、その方法を間違えないようにします。SNSの使い方ひとつで、将来の進路や人生が左右されることもあります。よく考えて行動してください。

そして、もう一度と、こうした話を私から直接しなければならないようなことが起きないようにしてほしいと思います。先生からも注意を受けることがあると思いますが、



ジャンボひまわり
2020.8.26



さくら並木
2025.4.9



コキア
2023 9 4



つつじ満開
2025.5.1



A photograph of a street lined with cherry blossom trees in full bloom, creating a canopy over a paved walkway. The scene is bright and colorful, with pink blossoms against a clear sky. A few people are visible walking on the path.

今日の話は、校長として皆さんの心の変化をか

けますよね。それと同じ
ようなものです。

ありません。使っている
のは家であり、スマホを

今日の話は、校長として皆が心から頼れる人だから